

■はじめに

この提案は、「たつき台」として考えております。理由は、空間構成・機能・形・素材・色などの具体的な内容は内川様とじっくり話し合いながら設計しなければならぬと考えているからです。そして、内川様が永らく快適かつ安心して生活が送れるようにこの提案が、内川様の満足のいく家づくりへの第一歩となれば幸いです。

■住まいづくりに対する基本姿勢

当社は、内川様の気持ちを考え、製品選びから工事中、そして施工後の使用感まで満足してもらうことを念頭において設計活動に取り組みます。また、高度な専門能力を有する構造設計や設備設計の専門家とチームを組んで安心できる快適な住まいを実現します。

■施工後も安心して暮らしていただくための居住空間を活かせる構造設計

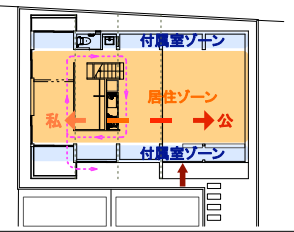
まず、木造とする場合は、在来軸組工法を基本として空間を活かせる構造形式を採用し、かつシンプルで無駄のない架構とします。また、構造はご家族の安全に関わることで、建築基準法より厳しい住宅金融支援機構(旧住宅金融公庫)の構造技術基準である『等級2』を守っておくべきと考えます。そして、木造建築であっても構造家のアドバイスを受けることを原則としています。

<耐震等級>とは
 ○等級1とは、建築基準法で定められた構造技術基準で、震度6強から震度7程度の地震力に対して倒壊や崩壊せず、震度5強程度の地震力に対して損傷しない程度。言い換えれば、震度6から7程度の地震に対して倒壊や崩壊はしないが、損傷を受ける可能性があるということになります。
 ○等級2とは、等級1の1.25倍の地震に対抗できる。
 ○等級3とは、等級1の1.5倍の地震に対抗できる。
 ※等級3はコストアップなどもあり採用する頻度は低いです。

■ご提案の特徴

南側には3階建住宅、北側には7階建マンションと一見とても厳しい建築条件に思えますが、この条件下でも「敷地全体を有効かつ楽しく使える空間」を目指します。ゆっくりと新たな住まいでの時間を過ごし、食事・就寝・入浴・団楽を主にするための『居住ゾーン』とこれらをサポートするために必要な『付属室ゾーン』を設けます。付属室ゾーンは、居住ゾーンを挟み込むよう南北に配置することで隣家からの視線を遮る緩衝帯としての機能も併せ持ちます。

1. 太陽の温もりを蓄えるルーバータイプのトロンプ壁
2. 自然光、通風、眺望を確保するための南側に向かって大きく口を開いた門型の玄関
3. 間仕切壁を極力なくした大きなワンルーム空間
4. 天井高や床の高低差で空間に変化を与えた適度な距離感
5. 無柱空間にすることで将来の間取り変更にも柔軟に対応
6. 将来2階レベルに床の増築が可能な天井高4.5mのリビング
7. 自然エネルギーを利用した冷暖房設備の採用
8. 周囲の目を気にせず入浴中に涼んだり、雨の日でも安心して洗濯物を干すことのできる2階のインナーテラス
9. 居住ゾーンをレイヤー構造にすることで、広く開放的にも仕切って落ち着いた雰囲気でも使えるよう工夫した室内構成



■外壁高さの決定

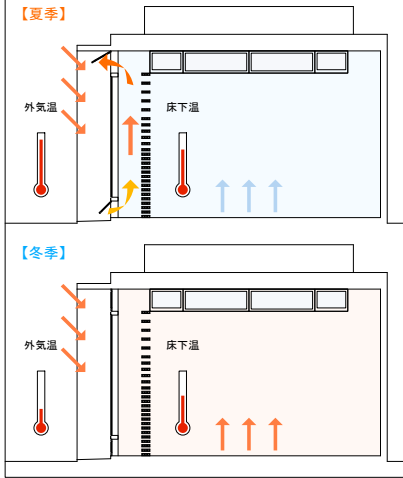
南側に建っている3階建住宅の2階部分にある窓は地盤面からおおよそ5m、北側に建っている7階建マンションの2階部分にある窓も地盤面からおおよそ5mの位置にあります。ゆっくりと新たな住まいでの時間を過ごし、食事・就寝・入浴・団楽を主にするための『居住ゾーン』とこれらをサポートするために必要な『付属室ゾーン』を設けます。付属室ゾーンは、居住ゾーンを挟み込むよう南北に配置することで隣家からの視線を遮る緩衝帯としての機能も併せ持ちます。



■深夜電力を利用した蓄熱式床冷暖房

広がりのある生活空間を実現するために個室単位で冷暖房をするのではなく、室内に温度ムラが生じにくい蓄熱式床冷暖房の採用を検討します。そして、割安な深夜電力を利用するエコキュートと蓄熱式床冷暖房を導入することによる経済効果も期待できます。

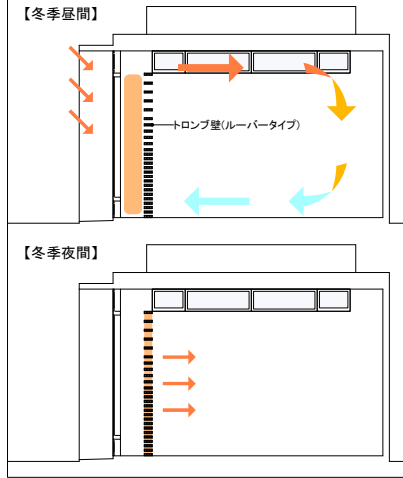
※蓄熱式床冷暖房とは
 割安な深夜電力の電気で床下の蓄熱材に蓄熱し、冬の昼間はその放熱で家全体を暖め、夏は蓄熱材を外気より低い温度にし、その冷放射で涼しく過ごすことができます。



■陽の温もりを蓄える壁=トロンプ壁

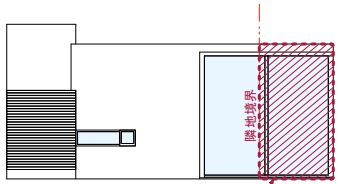
間仕切壁が少なく約30坪のワンルーム空間は、量販店などで購入できる空調設備による冷暖房ではランニングコストが大変掛かってしまいます。そこで、ランニングコストを抑えるために可能な限り自然エネルギーを利用することにしました。家の南面にガラス張りの黒色コンクリート壁(ルーバー状)をつくり、その壁に太陽熱を蓄熱させます。昼間貯えられた熱は、夜間壁から赤外線になって家を暖めます。

※ルーバー状を採用したのは、視線の抜けを確保するためです。



■旗竿敷地の形状を活かした開口部

敷地調査をした際に私は、過酷な条件の敷地だとは思いませんでした。何故なら南東側に竿部がある旗竿敷地のため朝からお昼過ぎまで開口部の取り次第では十分自然光を建物内に取り込むことができ、明るく居心地の良い住まいを実現できると思ったからです。南側に向かって大きく口を開いた門型の玄関を兼ねた開口部を設けることで「通風」「採光」「眺望」を確保します。



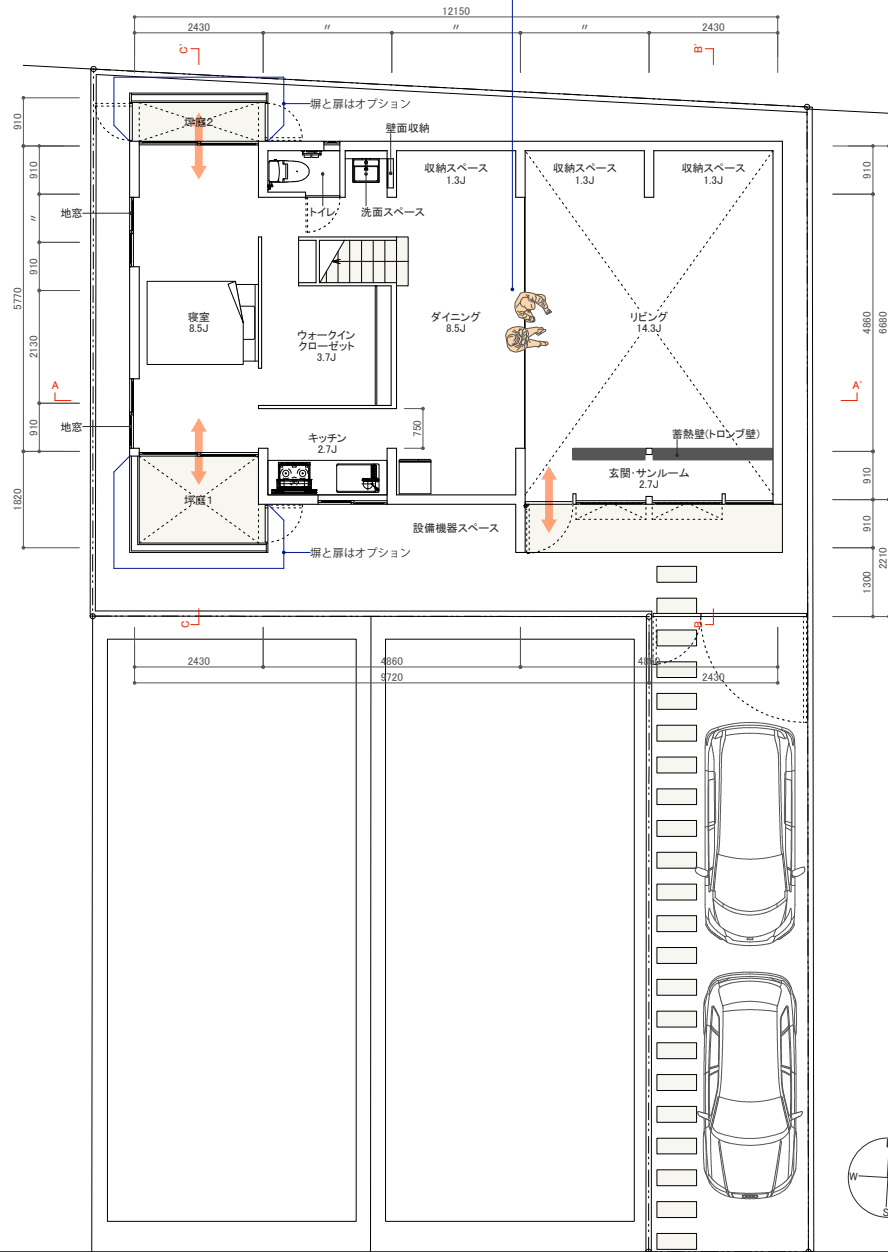
■外壁建材のイメージ

下の写真は渋谷区代官山旧山手通りにあるショップの外観写真になります。できてから10年ほど経過した建物ですが、大変きれいな状態を保っています。この建物の外壁にはフレキシブルボードという外壁にも利用可能な建材が使われており、内川様が抱えている倉庫のイメージに近く、価格も安価なので、私は今回のプロジェクトに適していると思います。また、この建物は旧山手通りという大変交通量の多い所に建っていますが、目立つ汚れもなく、無塗装品のため、メンテナンスフリーというメリットがあります。

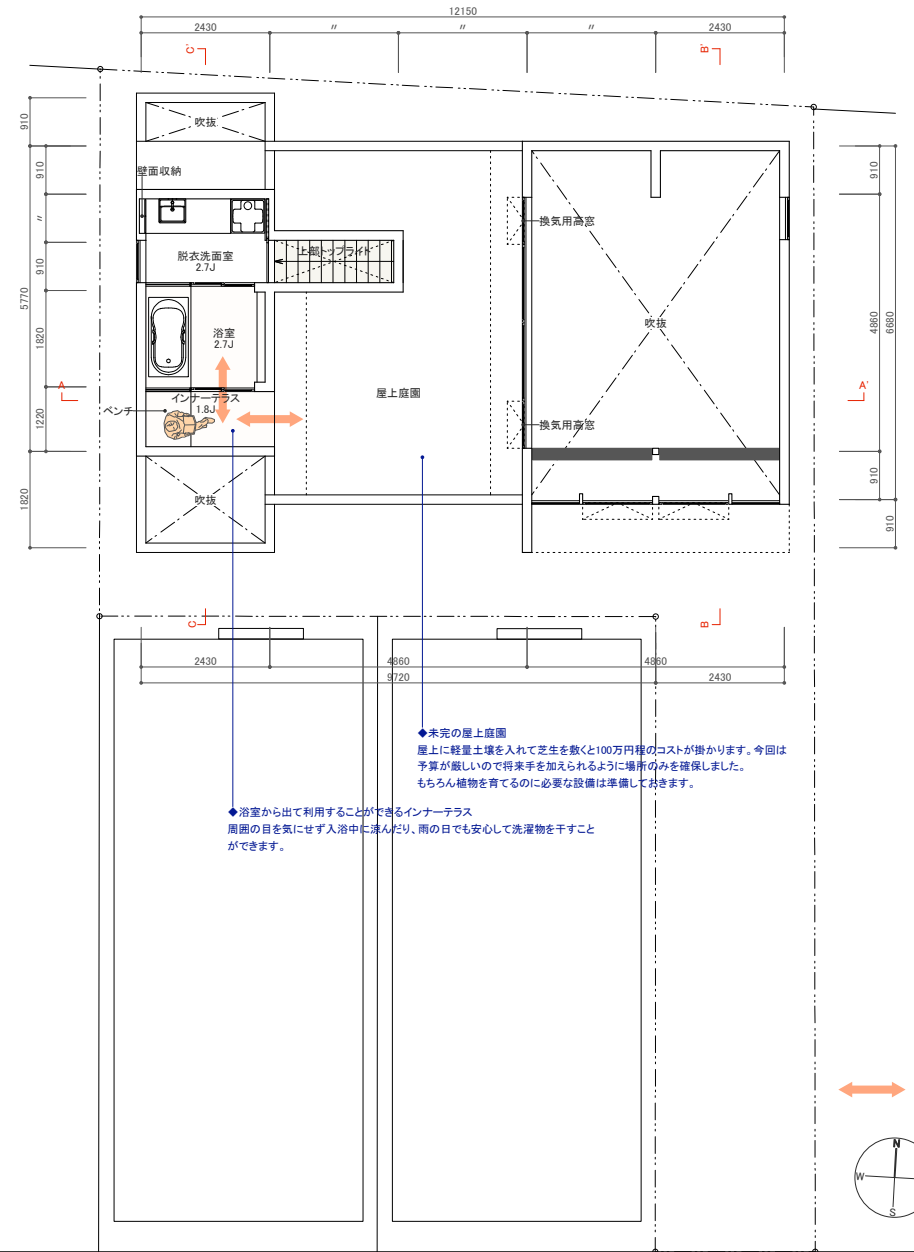


現時点ではコスト内に納まらなかったため、この壁はオプションとなっています。

◆床に段差を設けることでできたベンチ
リビングとダイニングキッチンとの間に35cmの段差を設けてベンチとして利用できるようにしました。



1階平面図



◆未完の屋上庭園
屋上に軽量土壌を入れて芝生を敷くと100万円程のコストがかかります。今回は予算が厳しいので将来手を加えられるように場所のみを確保しました。もちろん植物を育てるのに必要な設備は準備しておきます。

◆浴室から出て利用することができるインナーテラス
周囲の目を気にせず入浴中に洗んだり、雨の日でも安心して洗濯物を干すことができます。

出入口

2階平面図

